

平成 30 年度
鶴ヶ島市各種団体シート取りまとめ
及び団体ヒアリング結果報告書

平成 30 年 11 月

鶴ヶ島市 総合政策部 政策推進課

〔目次〕

1	まちづくり団体シート 実施概要	1
	(1) 調査の概要	1
	①調査の目的	1
	②調査の期間	1
	③調査の方法	1
	④発送及び回収	1
	(2) シート提出団体一覧	2
2	実施結果	3
	(1) 結果のまとめ	3
	①団体としての、今後の抱負や計画について	3
	②推進・参加・協力が可能な“まちづくり”活動について	3
	③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等	3
	④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等	3
	(2) シート項目別 回答一覧	4
	①団体としての、今後の抱負や計画について	4
	②推進・参加・協力が可能な“まちづくり”活動について	8
	③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等	11
	④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等	15
3	各種団体ヒアリング 実施概要	19
	(1) ヒアリング調査の概要	19
	①ヒアリング調査の目的	19
	②ヒアリング調査の期間	19
	③参加団体数	19
	④ヒアリング調査の方法	19
	(2) ヒアリング参加団体	20
	① 第1回	20
	② 第2回	20
	③ 第3回	20
	④ 第4回	20
	(3) ヒアリング参加団体意見（発言要旨）	21
	① 第1回	21
	② 第2回	22
	③ 第3回	24
	④ 第4回	25

1 まちづくり団体シート 実施概要

(1) 調査の概要

①調査の目的

平成 32 年度から新たな総合計画に基づきまちづくりを進める準備を進める上で、幅広く団体・組織のみなさまの意向を把握するために「まちづくり団体シート」による調査を実施し、その結果を総合計画策定の基礎資料として活用することを目的としています。

②調査の期間

平成 30 年 8 月 24 日（金）～9 月 10 日（月）

③調査の方法

まちづくり団体シートを郵送または電子メールによる発送、電子メールまたは F A X による返送

④発送及び回収

- | | |
|-----------|-------|
| ・ 発送数 | 51 団体 |
| ・ 回収（提出）数 | 32 団体 |
| ・ 回収（提出）率 | 62.7% |

(2) シート提出団体一覧

※No.はシート発送時の登録 No.

No	団体名	所管課
1	四季を味わう会	女性センター
3	鶴ヶ島市国際交流協会	地域活動推進課
4	特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	地域活動推進課
11	エコ鶴市民の会	生活環境課
12	鶴ヶ島の自然を守る会	生活環境課
14	つるがしま緑のカーテン市民実行委員会	生活環境課
15	鶴ヶ島市商工会	産業振興課
16	異業種交流会「スクラム 21」	産業振興課
17	富士見工業団地工業会	産業振興課
18	鶴ヶ島南西部工業団地工業会鶴ヶ島圏央会	産業振興課
19	高倉ふるさとづくりの会	農業交流センター
20	鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	福祉政策課
21	社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	福祉政策課
22	鶴ヶ島市身体障害者福祉会	障害者福祉課
23	鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	障害者福祉課
24	鶴ヶ島市聴力障害者会	障害者福祉課
25	わかばの会	障害者福祉課
27	鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	障害者福祉課
28	特定非営利活動法人こっこの会専門指導部	障害者福祉課
30	知的障がいを理解しよう Den&Den	障害者福祉課
31	鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	健康増進課
32	鶴ヶ島市食生活改善推進員協議会	健康増進課
33	NPO 法人カローレ	こども支援課
35	鶴ヶ島私立幼稚園協会	こども支援課
36	あたご保育園	こども支援課
37	さかえ保育園	こども支援課
46	かもめ保育園 (※回答内容は同一)	
47	NPO 法人鶴ヶ島市体育協会	生涯学習スポーツ課
48	鶴ヶ島市スポーツ推進委員連絡協議会	生涯学習スポーツ課
49	鶴ヶ島市スポーツ少年団	生涯学習スポーツ課
50	鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会	生涯学習スポーツ課
51	鶴ヶ島市PTA連合会	生涯学習スポーツ課

2 実施結果

(1) 結果のまとめ

①団体としての、今後の抱負や計画について

回答いただいた 32 団体からは活発な活動を展開すべく様々な取り組みを行っていることがうかがえますが、会員の高齢化と減少を課題とする団体も見られます。

そのような課題を補うことも含め、行政（市や県）との連携、地域との連携、専門家（員）との連携による活動の活性化や、自団体の情報提供による周知活動の必要性を挙げる団体が見られるほか、行政からの一層の情報提供を求めることや情報発信を求める意見が見られます。

②推進・参加・協力が可能な“まちづくり”活動について

各団体の活動をベースとしながら、市主催のイベント等への参加、自団体への参加を促す（啓発）活動、講演・講座や学習会への参加及び企画などが可能との回答が多くなっています。

③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等

団体が活動する場や施設の適正利用及び使用しやすい環境整備に対する意見、各団体が行っている多くの活動の体系的な実施による効果の増進、高齢化を見据えた適切な取り組み等の意見の他、団体の活動に行政（市）がより関心をもって、協働の度合いを高めることを要望する意見が出されています。

④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等

多くの市民が各種活動に積極的に参加するための取組を促すことや、そのための人づくりや人材育成の必要性、各団体同士や団体と地域・市民とが連携しあう環境や場づくり（連携の不足の視点から）、地域コミュニティの活性化や地域と連携するための窓口の設置、市民が集う居場所づくり、シニア世代の活躍の促進等の意見が出されています。

(2) シート項目別 回答一覧

①団体としての、今後の抱負や計画について

No	団体名	回答内容
1	四季を味わう会	男女共同参画がすべての人の、一人一人の問題であることの意識が共有できるような活動を続けていきたいと思ひます。 「どこでもまちライブラリー」では、できるだけ参考図書は女性センター図書室にある本と限定して、少しでも女性センターにある図書を広めたいと思ひています。 また「男女共同参画」というと堅苦しい話し合いと思われがちですが、日々の食べるもの話題から交流をすると、スムーズに意見が出て、お互い身近な課題なのだと思ひすることができまひす。様々な課題に取り組んでいきたいと思ひますので、この形式は続けていきたいと思ひます。
3	鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・従来生活している住民と外国籍市民が協働できるまちづくりを望みます。それには、地域のルールを知らせ、守る事を約束して貰う必要があり、言語と文化による意思疎通が必要でひす。今後は、当協会の日本語学習により多くの外国の方の来訪がある様に努力します。 ・近年は、外国籍市民の子供（児童・生徒）の編入問題が多くあり、習慣等の違ひから現場にも困難が生じているものと推察します、その様な事態に協力できる体制を整える様に努力をしていますが、まだ、双方の考え方には隔たりがあり、話し合いが必要と感じまひす。
4	特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 防災委員会の充実 自治会、各団体との連携を図りより実践的な組織づくり及び訓練を行う。 2. あんしんあったか地域ネット 事例から活動のありかたなどを学ぶ 3. 環境事業 堆肥づくり、収穫祭などを検討中
11	エコ鶴市民の会	ごみ減量と環境への意識啓発としてバザーの開催、生ごみ減量に取り組んでいく。生ごみはごみ減量と同時に農業者との共同により野菜づくりを進め、農地を守り、互いの健康を高めていく。
12	鶴ヶ島の自然を守る会	高齢化が進んでいるため、今後何年活動を続けていけるか分からないが、体が動く限り続けていくことにしている。今後も今まで通りの観察会を開催して、鶴ヶ島に残された里山の自然広く紹介し、微力ながらその保全の一翼を担っていきたく思ひている。市内の小学生の総合的学習で、講師として自然について紹介してきたが、今後もそうした活動を続けていきたい。
14	つるがしま緑のカーテン市民実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境省では、グリーンカーテンプロジェクトとして展開しており、当団体も協力する。 2. 緑のカーテンは、市の環境基本計画事業に盛り込まれてお

		り、計画達成に協力したい。 3. 地球温暖化防止は、市民の意識変革と行動が重要であり、必要時市民のみなさまに環境講座を開催しお伝えしたい。
15	鶴ヶ島市商工会	・経営指導員を中心に全職員による巡回の強化等による会員増強活動および金融・経営安定支援、経営革新支援を積極的に取り組むことにより小規模企業振興を目指す。
16	異業種交流会「スクラム21」	つるゴンのLINEスタンプを申請し、全国に市のイメージを高めていく活動を展開していきます。
17	富士見工業団地工業会	工業団地の付加価値を高められるように、行政（3市・県）と連携を図りながら課題・問題に取り組む。
18	鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	参加企業が全部ではないので、出来る限り会員を増やし、また、数多くの人員参加を期待しております。
19	高倉ふるさとづくりの会	・開発等により市内でも自然が減少していく中で、自然豊かな高倉地区が、市民の憩いの場となるような地域として残していきたい。
20	鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	身近な相談相手として常に地域住民の立場になって相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めます。
21	社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	今後高齢化が進む中で、地域包括ケアシステムの構築が急がれることは優先課題と考えている。その中でも社会福祉協議会が取り組むべき最優先課題は住民主体型の地域包括ケアシステムの構築と推進であり、最初に取り組むべきは住民と福祉専門職の協働によるまちづくりである。 また、高齢者に限らず生活困窮や障害を持っている方、子育て世代や子どもたちまで、全ての市民が住みやすいまちづくりを進めていくためには、地域住民を中心として多職種を巻き込んだ支援体制（地域福祉と個別支援の融合）が欠かせない。社会福祉協議会はそのお手伝いが可能であると考えている。
22	鶴ヶ島市身体障害者福祉会	会員が高齢化の為、スポーツ大会、イベント、講習会等の参加計画、実施出来ない。
23	鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	(1) 障がい当事者団体で、行政や多くのボランティア・市民の方に支援や援助をいただいています。支援を受けるだけでなく、自分たちが支援可能なことは少ないのですが、積極的に実施していきたい。 (小中学校の福祉教育、立ち合い共同募金活動、行政や社協等から要請されたことへの協力、高齢者施設などの慰問及びお話しボランティアなど) (2) 市や地区の防災訓練等への積極的な参加と、その重要性の啓発に協力していきたい。 (3) 視覚障がい当事者（仲間）の孤立化（情報からの孤立化を含む）を防止するため、会員相互の「情報交換」「一人ではない」ことを意識できる活動を実施していきたい。 ⇒おかげさまで国や行政、社会福祉協議会等からの国民・市民としての最低限の必要な情報は届くようになりました。今後は、自らが必要な情報等が入手できるような生活の質の向上を目指したい。また、行政や社協からの情報や施策を補う活動等を実施してい

		たい。 (4) 会員の健康寿命を伸ばすため、健康体操等への参加を呼びかけていきたい。
24	鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> ・手話言語条例の制定を求める ・障害のある人もない人も全ての人が安心して暮らしていける共生社会づくり条例の制定を求める
25	わかばの会	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の家族が抱える悩みや不安などを気軽に「話し合える場」の提供を行うこと。 ・家族のピアカウンセリング(※同じ立場にある仲間どうしによって行われるカウンセリング)を重点的に。
27	鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	活動メンバーを増やしていく。市民への障害者に対する理解啓発。 小学生中学生、保護者の福祉体験教育。
28	特定非営利活動法人こっこの会 専門指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家ペアによる不登校や引きこもりの個別相談や家庭訪問の事業を昨年12月から行なっているが、学校不適應を起こすリスクを乳幼児期から早期発見支援し不登校予防を行う。同じく学業修了後からの引きこもりリスクを学童期から早期発見し専門的指導に繋げ、育て上げと自立に向けた支援。 ・ダブルケア(子育て・介護・発達障がい児の子育て)を担う家族への支援。 ・経済的困窮家庭の学習・識字・読字障がい(読み書き困難)の専門家による専門的な指導。
30	知的障がいを理解しよう Den&Den	施設見学と勉強会
31	鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操を全域に広げたい。 ・小学校へ普及したい。
32	鶴ヶ島市食生活改善推進員協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・食以外の健康づくりにも取り組みたい ・学校や保育所と連携した取組をしてみたい ・現在、疾病予防や介護予防の料理教室を単独で実施しているが、効果的な取組として、疾病予防のための料理教室は、保健センター職員(管理栄養士)と一緒に、保健センター事業として実施したい。また、介護予防のための料理教室は、高齢者福祉課職員(専門職)と一緒に、高齢者の事業として事業を実施したい。
33	NPO 法人カローレ	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人は、子育て支援に関する事業を展開する中で各事業所内の利用者支援を積極的に進め、保護者の子育て支援をするとともに、鶴ヶ島市の児童委員・民生委員・地域支え合い協議会等の子育て支援関係者とともに地域の子どもの健全育成に努めたいと考えています。 ・今後も子育て支援に関する事業を更に拡げていきたいと考えています。
35	鶴ヶ島私立幼稚園協会	本団体の構成園の幼児教育の質が向上し、近隣市町からも高く評価され、義務教育へつなげていけるよう努めたい。
36	あたご保育園	地域との交流を大切にし、園だけでなく地域とともに園児たちの成長を見守っていきたい。
37	さかえ保育園・かもめ保育園	地域との交流

47	NPO 法人鶴ヶ島市体育協会	<p>子ども達の健やかな成長は、誰しもが願うことであります。昨今、青少年による犯罪や事件なども多発しており、青少年の健全育成は重要な課題であります。</p> <p>体育協会では、明日の鶴ヶ島を担う青少年の心身の健全な育成、競技力の向上を目的に子ども達が参加できる大会やスポーツ教室に特に力を入れています。</p> <p>本年度の新規事業では、チームワークが勝敗を左右する、コミュニケーションづくりに最適な競技として「鶴ヶ島市民綱引き大会」を計画しました。多くの小学生・中学生に参加してほしいと思います。</p>
48	鶴ヶ島市スポーツ推進委員連絡協議会	<p>今後は障害のある方もスポーツができる環境が大事、全国的にスポーツ推進委員に障害者スポーツの指導に期待が持たれています。市スポーツ課と障害者福祉課、社会福祉協議会・スポーツ推進委員連絡協議会と協力して障害者スポーツに取り組みたいです。</p>
49	鶴ヶ島市スポーツ少年団	<p>現在の運営が非常によくできているので現在の運営を維持することを中心に行い細かい点での改善を行いたい。</p>
50	鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代（中高生）の育成の充実と子ども会以外での地域での活躍の機会を作っていく。 ・他の子ども関係団体との連携による、つるがしま郷土かるたの普及。 ・つるがしま郷土かるたや子ども会行事を利用し、子ども達に「ふるさと鶴ヶ島」をより深く知ってもらう。 ・大人になっても鶴ヶ島に住みたい「鶴ヶ島 love」の子ども達を増やしたい。
51	鶴ヶ島市PTA連合会	<p>鶴ヶ島の子どもたちに、よりよい環境を作って行くこと。そして、それを保護者、学校、地域の三者を中心に進めて行きたいと思います。各校PTAの活動の情報交換を密にし、各校の個性を尊重しながら、全体としてよい方向に進むように合理化や標準化を進めていきたい。</p>

②推進・参加・協力が可能な“まちづくり”活動について

№	団体名	回答内容
1	四季を味わう会	<p>政府は女性の活躍推進、女性輝く…と旗を振ってはいますが、女性、男性ともに明治以来染み付いた「性別役割分担意識」を払しょくするのは並大抵な事ではありません。それができないと、活躍できる女性は一握りのエリートでしかない現状は変わらず、すべての人がより良い暮らしが可能になるような活動や、草の根の人々に働きかける活動が必要です。</p> <p>毎年開催される「ハーモニーふれあいウィーク」は女性センターで行われる市民参加の最大イベントです。会のメンバーは、ふれあいウィーク全体に関わる企画会に参加したり、独自にワークショップを開催したりと積極的に関わってきています。また、女性センターで活動するサークル・団体がサポーターとして参加する習慣も根付いてきており、私たちの会でも協力をしています。様々な関わり方をする事によって、これまで知らなかった分野を理解することができます。</p>
3	鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月26日「鶴ヶ島水かけまつり」、9月30日「防災訓練」への参加。 ・ 外国籍の方が地域で生活する際に、知る必要がある活動に参加協力をします。 ・ 外国の方が必要と感じ、当協会が可能な範囲の事柄に関しての協力。 ・ 市役所、関連団体が、外国籍の方への対応に必要な事柄に関しての協力。 ・ 災害時の外国籍市民対応への協力。
4	特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	—
11	エコ鶴市民の会	<p>台所の生ごみを、お金のかかる焼却という手法を用いず、家庭内処理できる「おうち de キューロ」事業に多くの市民の参加を目指す。</p>
12	鶴ヶ島の自然を守る会	<p>今まで、市主催の自然観察会の講師や環境月間の展示物での活動紹介等で協力してきたが、今後も可能な限り参加していくつもりである。小学校等の自然学習に対しては、できる範囲で協力していくつもりである。農業大学校跡地など作られる緑地には、提案・設計・創出作業等で協力していくつもりである。</p>
14	つるがしま緑のカーテン市民実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6月度環境月間での「つる性苗配布」及び「緑のカーテン 展示会」は、市民環境意識高揚面からも毎年開催したい。 2. 苗育成講習会、土作り講習会等を適宜開催する。 3. 小学校高学年の総合的学習の時間の中に、環境にやさしい緑のカーテン講座及び地球温暖化講座を「出前講座」として開催したい。
15	鶴ヶ島市商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創業支援による事業所の増加。 ・ 一店逸品運動、プレミアムセール、街バル事業等の実施により魅力ある商店づくりを支援。

		・異業種交流事業（スクラム 21）による特産品開発等地域商業の活性化事業。
16	異業種交流会「スクラム 21」	例年、異業種交流会として、産業まつり等に出店し活動をアピールしています。
17	富士見工業団地工業会	当工業会では、社会貢献活動も進めています。 各市でのイベントへの協力、産業振興に協力して参ります。
18	鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	防災訓練などの活動にも参加してみたい。
19	高倉ふるさとづくりの会	・現状として、水路の泥揚げ、畦道の草刈など適宜行い、高倉地区の景観を考えたまちづくりに貢献している。引き続き、同じ内容の活動であれば協力できる。
20	鶴ヶ島市民生委員・児童委員連 合協議会	各委員が日頃から様々な“まちづくり”活動への参加・協力・ 推進をしています。“まちづくり”活動の案内等を頂けましたら、各地区協議会の定例会で委員へ周知します。
21	社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福 祉協議会	・福祉の専門性を活かした地域づくりと個別支援を融合した 複合支援の協力 ・小地域（地縁）とボランティア（志援）を結ぶ取り組み ・地域社会での近隣住民の協力関係が必要とされる防災対策 や活動を通じて地域の日常での関係性を高める取り組み
22	鶴ヶ島市身体障害者福祉会	前項回答（会員が高齢化の為、スポーツ大会、イベント、講習 会等の参加計画、実施できない。）に基づき不可能。
23	鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネッ ト	（1）各種検討会や会議等への参加及び意見の提出等 （2）各種募金活動等への参加・協力 （3）福祉教育等への参加・協力 （4）福祉に関する市民への啓発活動等 （5）障がい者の立場から、防災計画作成並びに福祉避難所 等に関する協力や各種意見の提出。
24	鶴ヶ島市聴力障害者会	・福祉まつり ・障害者交流会
25	わかばの会	会員の多くは、会員の高齢化に伴い、“まちづくり”活動に推 進・参加・協力を呼びかけると、次回の集まりから、欠席者が 続出し、会の存続が難しくなる可能性が大きい。会員を惹きつ ける活動が必要であるが、現在何であるか不明中。
27	鶴ヶ島市障害者支援ネットワー ク協議会	交流イベント等を通じて障害者理解への啓発等の広報活動
28	特定非営利活動法人こっこの会 専門指導部	臨床心理士・特別支援教育士・作業療法士など資格を持った専 門家が10名所属している利点を生かした、発達障がい児・発 達障がい者・聴覚過敏・不登校・引きこもりの啓蒙活動。
30	知的障がいを理解しよう Den&Den	障害児・者を連れての参加・協力はなかなか難しい。
31	鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	まずは自身の健康のため、毎日ラジオ体操に精進します。ま た、仲間を広げるための声掛けを行います。
32	鶴ヶ島市食生活改善推進員協議会	－
33	NPO 法人カローレ	・産業まつり、プレーパーク、図書館まつりなど、要請があれ ば可能な範囲で参加協力します。
35	鶴ヶ島私立幼稚園協会	－
36	あたご保育園	・園児たちの地域のイベントへの参加

		・高齢者施設や小学校・中学校・高校等との交流
37	さかえ保育園・かもめ保育園	赤ちゃんの駅、学校 110 番の協力
47	NPO 法人鶴ヶ島市体育協会	体育協会の事業は、5月の総会から、毎月定例開催の常任理事会、年間4回開催の理事会。そして、例年の各種事業の開催に向けた実行委員会、部会会議、大会の前日準備、当日運営、反省会への出席。また、今後の課題解決に向けた取り組みなど考えると、日程に追われている感もあり、今後新たな形で市等の事業への参加・協力活動となると、現状では無理があると感じます。
48	鶴ヶ島市スポーツ推進委員連絡協議会	自治会、各市民センター等広く対応したい。 市民体育祭にかわるフェスティバル（総合的）に移行する事も検討が必要かと存じます。
49	鶴ヶ島市スポーツ少年団	スポーツを通じて子供たちの育成に協力する。
50	鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会	・子どもに関わる行事へのスタッフ（中・高・大学生・大人）の派遣 ・子どもの楽しませ方、レクリエーション、野外活動等のノウハウの提供
51	鶴ヶ島市PTA連合会	・地域の防犯、防災運動への参加 ・健康増進活動への参加

③鶴ヶ島市の“まちづくり”へのご意見や要望等

№	団体名	回答内容
1	四季を味わう会	<p>「鶴ヶ島市男女共同参画推進条例」の趣旨を改めて確認していただき、女性とすべての人が鶴ヶ島で良かったと感じることができるまちづくりをしていってほしいと思います。</p> <p>女性センターを利用する団体の意見として、「ハーモニーふれあいウィーク」は今後も続けていってほしいと思います。市民参画のイベントとしては他市町村には見られない行政との協力体制が築かれていると思います。</p> <p>女性センターの利用団体のほとんどが、活動内容においてセンター設置の目的に合っていないという指摘があり、そう認識をする市民も少なくありません。せめて女性センター利用団体には設置目的の周知、女性センターからの発信に対する意見、疑問、要望がスムーズに出るように働きかけてほしいと思います。市民の意見を取り入れてくれる市民に寄り添う市、また、若い人が住みたくなる魅力ある市になってほしいと思いますが、そのためには、市民と行政との協力体制が大切であると同時に、世界の情勢、特に男女共同参画に関しては、日本は遅れていると言われていまして、実態の把握と市の方向性をきちんと発信し、市民が積極的に参加できる、参加したいと思えるまちづくりをしてほしいと思います。</p> <p>国立女性教育会館や県の男女共同参画推進センターで開催されるイベントや学習・研修会の中には、職員に対するものも多々あります。正規職員のみでなく臨時職員にも学習する機会を与えて、総合的な運用をしていってほしいと思います。また、人数的職員体制を本来の目的達成が可能になるよう改善充実されることを要望します。</p> <p>女性センター図書室の蔵書が古いものが多く、参考にできないことが多々あります。資料的なものは随時更新されることを希望します。</p> <p>第5次鶴ヶ島市総合計画の男女共同参画の推進に、「生活に即した意識の醸成を進めることによって・・・」とありますが、この「生活に即した」という言葉が何度も出てきます。「生活に即した」と言われると、家庭生活の中で、貧困、シングル家庭、DVのある家庭、自分らしく生きてない人、など、平等に扱われなくてはならないのにそうでない人々の生活をそのまま無視をして責任を押しつけている感じがします。第5次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画にある施策18のほうはまだよいと思います。さらに「市民すべてが」が入るとよいと思います。</p>
3	鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・市内に設置してある看板、標識、案内板等の表示の多言語化。 ・市役所等公共機関の申請書等の多言語化。 ・災害時案内に「やさしい日本語」、「イラスト表示」を加え、印刷して保存する。
4	特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動も限界があるので人材育成をお願いした

	小学校区地域支え合い協議会	<p>い。(必要があれば企画提案を致します。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ島市の“まちづくり”の検討委員会を立ち上げたいかがでしょうか？ ・各団体が沢山の事業を行っていますがもう少し整理して体系的に展開したら如何でしょうか？
11	エコ鶴市民の会	<p>温暖化で地球は危機的状況にある。新エネルギーへの取組み、自然保護、食生活の見直し、農業の継続、ごみ減量、一人ひとりの文化的生活の向上をめざしつつ、市民協働のまちづくりを進めていけるとよい。</p>
12	鶴ヶ島の自然を守る会	<p>市内の山林は 80ha を切り、20 年間で半分近くになった。現在 23.89ha ある樹林地も市民の森の指定解除など減っていく可能性が高く、市内の樹林地の保全は極めて厳しい状態にある。鶴ヶ島市の自然環境の特徴は、市の西部地区の樹林地内に湧き水帯があり、市内を流れる大谷川、飯盛川の水源となっていることである。とくに大谷川の本線の自然河川と河畔林はホンドキツネ等の動物の移動ルートになっている。こうした里山の環境は市民に活用してもらう方法を考えながら将来に残していきたいと思う。</p>
14	つるがしま緑のカーテン市民実行委員会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緑のカーテンは省エネ・節電に結び付く、環境にやさしい活動です。その普及をより促進させるため、作っている方に何かインセンティブが必要と考えます。 2. 各小中学校の緑のカーテン設置・育成は学校により温度差が感じられますので、必要に応じ、私たちの団体が育成についてご協力したいと思います。
15	鶴ヶ島市商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き店舗対策は、行政にとっても重要課題の一つであり、起業・創業支援と連携し、商店街（東栄会）にチャレンジショップ「つるカフェ」をオープンさせ商店街の活性化を図り、空き店舗の活用事業に広がることを目指している。 また、空き家対策も空き店舗対策と同様に行政にとって重要課題の一つであり、具体的な対策（システム）の構築が迫られていると思います。
16	異業種交流会「スクラム21」	鶴ヶ島市商工会と同じ。
17	富士見工業団地工業会	<p>7月に齊藤市長に政策の講演をいただきました。</p> <p>今後とも定期的にこのような機会を持たせていただきたいと思っています。</p>
18	鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	「農業大学校」跡地の新しい工業団地とも連携が図れればと思う。
19	高倉ふるさとづくりの会	<ul style="list-style-type: none"> ・高倉地内に農村風景とマッチした集客施設ができると会としての活動がしやすくなる。
20	鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問活動をする中で、家に引きこもっている高齢者が多いと感じます。家に引きこもっている方が外に出るきっかけをつくるまちづくりや事業が必要ではないかと感じています。
21	社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	<p>障害のある方の居住支援が他市に比べると未整備な状態にあると考えられる。親亡き後や親からの自立を希望した場合に受け皿となるべく住居が不足していることにより、市外へ転出する方も少なくない。制度的な環境整備は進むものの、実際に受入れ可能な住居が不足しているため、福祉施策だけに</p>

		<p>頼った問題解決では進まない現状にあると考えられる。空き家条例などを積極的に活用し、不動産事業者や福祉事業団体等との意見交換やマッチングの場などを創設することで居住支援体制を整備していただきたい。</p> <p>一方で、単身高齢者が増えている現状において、小地域における地域支援を行うための拠点としてまた、まちづくりには欠かせない誰もが集える居場所づくりとして、空き家等を活用することが有効であるため、積極的な支援をお願いしたい。</p> <p>また、住民の高齢化やさまざまな制度の狭間の問題などに対し、鶴ヶ島市としての強いメッセージ（方針）を示し、官民協働によるまちづくりの具体的なプロセスを示すべきであるとする。</p>
22	鶴ヶ島市身体障害者福祉会	障害者団体との横のつながり、情報が欲しいと思っておりますが具体的には明記出来ません。
23	鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	<p>(1) 市内の視覚障がい者にアプローチするための情報の提供をお願いしたい。</p> <p>(2) 視覚障がい者が集まって活動する場合、見えないので自然に声が大きくなるため、交通の便が良い場所に、個室あるいは仕切られた施設が欲しい。</p> <p>(3) 会の活動や視覚障がい者に伝えたい情報の伝達手段が欲しい。</p>
24	鶴ヶ島市聴力障害者会	・手話言語条例に関するシンポジウム
25	わかばの会	—
27	鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	<p>産業まつり等の時に福祉コーナーを予め設定してもらいたい。</p> <p>アンテナショップの設置。</p>
28	特定非営利活動法人こっこの会 専門指導部	発達障がい・不登校・引きこもりの早期発見と早期指導によって自立に向けた支援事業を行なっている。生活保護予算や障害年金予算の抑制にも繋がる事なので、共に協働して下さる関係部署からの連絡をお待ちしています。
30	知的障がいを理解しよう Den&Den	<p>参加したい講演会等あっても、障がい児の居場所の確保がないと参加できない。</p> <p>保育は幼児ばかりなので、障害者のものはあるの？</p>
31	鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	健康づくりは若い世代から取り組んだ方がいい。そのための広報をお願いしたい。
32	鶴ヶ島市食生活改善推進員協議会	・若い人をもっとサポートするまちづくりに力を入れてほしい。
33	NPO 法人カローレ	・市の子育てに関する課におかれても、積極的にアウトリーチを進めてもらいたいと考えています。例えば、妊産婦死亡、原因は自殺が1位 102人、「産後うつ」かと成育医療センター調査結果（平成30年9月5日）が新聞に掲載されていました。ホームスタートなどのアウトリーチ型ネウボラ事業の検討を進めてもらいたい。
35	鶴ヶ島私立幼稚園協会	子育て世代にとって魅力ある環境づくりを要望いたします。鶴ヶ島市と同規模の自治体の事例を参考に、取り組める活動があれば積極的に参加いたします。
36	あたご保育園	・保育士不足で問題となっています。非常勤で保育士資格を持

		<p>つ方が少なく、なかなか職員の休暇も取れないでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT補助金の活用の必要性、園におけるICT機器（パソコン、タブレット等）の設置や防犯カメラの設置の補助も含まれるものである。
37	さかえ保育園・かもめ保育園	<p>子ども達が仲よく安心して遊べる広場を増やして頂きたい。又、安全に遊べるよう防犯パトロールをするなど対策をして頂きたい。</p>
47	NPO 法人鶴ヶ島市体育協会	<p>鶴ヶ島市民が切実に求めている総合体育館や総合運動場、各種武道場などの建設・整備の促進について、市へ要望書を提出しています。鶴ヶ島の将来を見据え、今後、レベルの高い試合観戦をはじめ、スポーツ愛好者が安心して試合や練習に利用でき、スポーツ人口を拡大し子ども達にスポーツの楽しさや、夢や希望が与えられる施設を早期に実現してほしい。</p>
48	鶴ヶ島市スポーツ推進委員連絡協議会	<p>総合体育館（できればバドミントンコート12面位）がほしい。入間地区（13市）西部地域の交流が大切になってきます。人口減少により、地域のコミュニティが大切です。</p>
49	鶴ヶ島市スポーツ少年団	<p>現状の問題点でもあげさせてもらいましたが、練習場所、大会会場が不十分です。施設の拡張改善、新設等で補ってほしい。</p>
50	鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり、地域づくりに子ども達から意見を募ったり、地域活動に巻き込んだらどうでしょうか。未来の鶴ヶ島を担っていく子ども達を巻き込むことで、地域に愛着がわき、大人になっても進んでまちづくり・地域活動に関わって行くのではないのでしょうか。
51	鶴ヶ島市PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外での子どもたちの安心と安全の確保 学校内→大人からの体罰やパワハラ、子ども同士のいじめの早期発見策の構築。 学校外→事件に巻き込まれないような防犯対策案の策定。 登下校時→通学路内の安全確保策の構築。車の危険運転者の取り締まりや30kmゾーン等のルール作成、施行。 ・学校活動の子ども減少への対応 児童・生徒数の減少により、部活動など様々な学校の機能が縮小しています。市は学校の再編を進めておりますが、再編により解決することと再編をまたずにできることを識別し、学校間交流など、またずにできる施策は優先して進めて欲しいと思います。

④今後の“まちづくり”全般についてのご意見・ご提案等

№	団体名	回答内容
1	四季を味わう会	<p>自治体の環境、状況、財政に関わらず、最も重要な要素は「人」だと思います。よりよいまちづくりの為に、偏りなく広い視点が欠かせません。よって、資源である「人」を育て、活かす心構え・仕組みの構築を望みます。</p> <p>具体的に考えた場合、一般市民が一番身近な行政と接する場が、市民センターや女性センターです。社会教育施設でなくなった市民センターでは、市民がお互いに学び合ったりする学習権を享受する機会が少なくなっていると思います。職員も専門職にこだわらなくなり、臨時職員の割合も増えています。単なる貸し館業務や事務ばかりでなく、公平公正な目で市民同士のつながりや活動の支援をさらにしていってほしいと思います。</p> <p>今回のような総合計画策定にあたり、できるだけ多くの市民に意見を聞いて、様々な市民が何を求めているのかをしっかりと把握し、その求めに対して市は何ができて、どうすれば要望に応えられるかを考え明確に示してほしいと思います。</p>
3	鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で活動する市民の方々が、連携をしてより良い「まちづくり」ができる事を望みます。 ・災害時に市民が、市役所職員と協働可能なまちづくりを希望します。
4	特定非営利活動法人 鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・行政・教育委員会・社協・自治会・各団体との連携不足（縦割り行政から早く脱却して頂きたい。） ・議員団も市民の声を聞き行政へ条例提案をしていただきたい。（鶴ヶ島の議員は一度も提案がないようですが？）
11	エコ鶴市民の会	<p>環境問題は地球温暖化、マイクロプラスチック等、市民一人ひとりの日々の生活とつながっています。いかにして解決していくかということも、日々の暮らし方を見直すことで、よりよい環境を維持することができます。1人の人にできることは小さくても、自分の取り組んでいることと社会の課題との接点を考え、いろんな分野の人と連携し、よりよいまちづくり人になるような市民教育が必要と思う。</p>
12	鶴ヶ島の自然を守る会	<p>本市は全域が平坦地のため樹林地や湧水環境を保全していくことは極めて難しいが、地球温暖化やヒートアイランドを考えると、そうした環境を計画的に残していくことが非常に重要であると思われる。また、農業生産が行われなくなった農地の活用、転用は重大な課題である。不耕作地や駐車場を太陽光発電に生かすソーラーシェアリングなどの施策も必要と思われる。湧水環境を公園化することで保全していくことも重要である。地産地消やごみの減量化を進めることで、省エネルギーの地域づくりも必要である。</p>
14	つるがしま緑のカーテン市民実行委員会	<p>現在「化石エネルギー」から「自然エネルギー」への大転換が叫ばれております。</p> <p>住宅への「太陽光発電」導入について、より促進検討が必要</p>

		と考えます。
15	鶴ヶ島市商工会	・高齢者対策と合わせ地域のコミュニティとしての中心市街地のあり方を考える必要があると思います。
16	異業種交流会「スクラム21」	鶴ヶ島市商工会と同じ。
17	富士見工業団地工業会	—
18	鶴ヶ島南西部工業団地工業会 鶴ヶ島圏央会	—
19	高倉ふるさとづくりの会	・高倉地区は、農業を営む世帯が多い。他地域からの集客を見込める道の駅等の開設を強く望む。
20	鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会	・熱中症対策として小中学校の体育館に冷房設備を導入して欲しい。 ・文化会館のような多くの市民が集まれる場所が欲しい。 ・地域活動の拠点である市民センターの所長は、積極的に地域住民と関わることが求められるため、適任な職員を配置して欲しい。
21	社会福祉法人 鶴ヶ島市社会福祉協議会	市民と行政が協働の視点を持ちながら市民活動を応援することは先進的な取組みであると認識している。しかし、地域では地味ではあるが主体も内容も様々なボランティア活動が行われている実態がある。地域の活性化や包括的ケアを推進するにあたっては、地域ボランティアは必要な力であるのもっと広く公平的な応援が必要と考える。 今後の地域づくり、まちづくりには地域のことをもっとよく知ることが重要であり、協働をさらに高めていくためには行政と社会福祉協議会が共に小地域ごとに“地域担当職員”の配置を進めていくことが必要であると考え。
22	鶴ヶ島市身体障害者福祉会	方針等、進行状況が具体的に市民が解る様な公報（情報）が欲しいと思います。
23	鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット	(1) 本市の今後の”まちづくり”の「まちづくり」という言葉の響きについてです。 単に「まちづくり」という響きは、道路の施設や、あるいは行政などの施策等がイメージされ、誰かがあるいは一部の人がやっているように響きます。 ⇒「まちづくり・地域力アップ」のような、「市民の力」を取り込んで「市民力」「地域力」の活力アップを図っていくような響きのスローガンあるいはサブタイトルのようなものを考えてはいかがでしょうか？ （「地域力アップ」については、福祉教育ボランティア団体 ウイズともになが、「Tアップゲーム」（地域力向上ゲーム）なるものを考案し、福祉教育をやっておりました。そちらからのヒントです） (2) 具体的提案 ①「地域力アップ」について 元気な地域、活力のある地域あるいは魅力のある地域は、地域のイメージがアップし、住んでいる人たちが元気になり、そのようなところには、自然に人が集まってくるのではと考えます。 ア. 運動施設の整備

		<p>市民の健康維持向上のため、ウォーキング、ランニング、中学、高校生等のスポーツ競技の強化をするためには、年間を通じて練習、トレーニング等を継続する必要がある。鶴ヶ島市内には、河川敷や大きな公園がなく、市民が安心して継続的にランニングやウォーキング、散歩（車椅子を含む）などをする場所、施設がない。</p> <p>市の総合運動公園と市民の森が接続しており、市民の森の周囲にランニングや散歩ができるコース（車両通行禁止）を整備することにより、市民の体力アップ、健康増進が図れると考える。</p> <p>a.効果等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森（樹木等）はなるべく手を付けずに、森林の良さを享受できる。 ・市民の体力、健康の増進（真夏は日陰のあるコースが取れるため、年間を通して、しかも安全に活用できる） ・市民のスポーツ大会、マラソン大会などの行事がその施設を中心に実施できるようになる。 <p>イ. 中学生（学校）及びシニア世代の力のアップとその力の活用</p> <p>市内には、清風高校を除き、高校、大学がないので、その力を取り込むことは難しいが、中学校は沢山あり、また、シニア世代は現在も近い将来も在住すると考える。</p> <p>元気のシニア世代の力を結集できれば、すごい力になると考える。第1弾として、その力を学校教育への協力・支援、地域活動への振り向けを、第2弾として、あるいは並行して、中学生を盛り上げることにより、学力の向上、スポーツ大会での全国大会出場等、そして地域への関心の高まり、それが小学校、そして市民への活力などにつながっていくのではないのでしょうか。</p> <p>ウ. 生活の便の向上</p> <p>a.道路網（交通）の整備</p> <p>鶴ヶ島市は、小さく狭いにしては、高速道が2本、国道が1本、私鉄が1本（+支線が1本）と、比較的恵まれている。しかしながら、線路により交通が分断され、しかも主要な市道は、途中で途切れて、とても移動しにくい。また、流れも悪く、生活のしやすさが感じられない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道を通過できる道路（踏切を含む）の整備。 ・途中で止まっている道路の整備等によって、市民の地域内の移動の向上。 <p>これらにより、通勤、通学の便の向上が図られ、地域のイメージ、生活の向上等が図られると考える。（鶴ヶ島市のイメージもアップ）</p> <p>(3) 地元で買い物ができるようなスーパーなどの誘致ある</p>
--	--	---

		いは、市民出費などによる、市民にやさしい買い物施設、憩いの施設などがあると、市民の生活意欲の向上につながるのでは。(夢のようですが)
24	鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> ・手話言語条例に関するシンポジウム ・福祉まつり ・バリアフリーのシンポジウム ・障害のある人もない人も全ての人が安心して暮らしていける共生社会づくり条例に関するシンポジウム
25	わかばの会	—
27	鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	障害があってもなくてもハードもソフトもみんなに優しいまちづくり。
28	特定非営利活動法人こっこの会 専門指導部	—
30	知的障がいを理解しよう Den&Den	同時期にイベント・講演会等重なりすぎではないか？障がい者の参加出来るものが少ない、分かりにくいのでは？
31	鶴ヶ島市ラジオ体操連絡会	ゴミを有料化した方がいい。
32	鶴ヶ島市食生活改善推進員協議会	・市民同士をつなぐ、または、市民と行政をつなぐ調整役として、地域の窓口がどこかにあればよい。
33	NPO 法人カローレ	・地域支え合い協議会の活動は、地域の見守り隊として今後、更に必要になってきています。地域で活動する団体とともに連携強化を図ってもらいたい。市が中心となり、効果的、実効性のある地域で活動する団体のネットワーク化を推進してもらいたい。
35	鶴ヶ島私立幼稚園協会	—
36	あたご保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが安心・安全に遊べるまちづくり、公園の整備(清潔なトイレの設置、水場・砂場の衛生管理等) ・歩道や交通量の多い横断歩道の信号機設置
37	さかえ保育園・かもめ保育園	青少年の育成や老人問題に対応できるよう、気軽に相談できる場や年齢層関係なしに立ち寄れる交流の場を地域で増やしていけることができればと思う。
47	NPO 法人鶴ヶ島市体育協会	今後も、体育協会の機能を充実させる中で、地域に理解され、地域にしっかり根付いた体育協会の活動を展開する。体育協会の究極の目的は、市民一人ひとりが健康で心豊かな生活を送ることにあります。その実現に向けてスポーツを通じたまちづくりを考えていきます。
48	鶴ヶ島市スポーツ推進委員連絡協議会	—
49	鶴ヶ島市スポーツ少年団	災害の少ない鶴ヶ島です。安心、安全で社会資本が充実して住みやすいまちにしてください。
50	鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会	・市が企画・計画している事を、たたき台の段階で市民に提供することで、団体や個人から、意見、サポート、人材や情報の提供があるのではないのでしょうか。
51	鶴ヶ島市PTA連合会	学期制の移行の変遷のように、施策の計画・実行・評価改善が他市と比べて周回遅れになっていると感じます。教育の街を目指すならば、鶴ヶ島独自のオリジナリティ溢れる施策を前面に出し、他にない学校運営をして、子育て世帯の家族が増え活気溢れる〔街〕になることを期待します。

3 各種団体ヒアリング 実施概要

(1) ヒアリング調査の概要

①ヒアリング調査の目的

まちづくり団体シート提出の団体を対象に、記載されたシート内容を踏まえ、より具体的に団体・組織のみなさまの意向を把握し、その結果を総合計画策定の基礎資料として活用することを目的としています。

②ヒアリング調査の期間

平成30年10月15日（月）～10月16日（火）

③参加団体数

- ・参加団体 17団体
- ・参加人数 23人

④ヒアリング調査の方法

まちづくり団体シート発送時に添付した参加申込書に、参加希望日時を記入いただき、市役所4階会議室で4回（各回2時間程度）に分けて実施。

[各回のプログラム]

<p>1 開会 ・事務局あいさつ ※開催目的等の説明</p> <p>2 趣旨説明 ・配布資料(2)～(5)の説明</p> <p>3 意見交換 (1) 現在感じている課題や問題点 (2) 課題解決のために必要なこと (3) その他</p> <p>4 閉会 ・事務局あいさつ</p>	<p>(配布資料)</p> <p>(1) 次第 (2) まちづくり団体懇談会の開催に当たって (3) 第5次鶴ヶ島市総合計画後期基本計画：概要版 (4) 市民意識調査結果ダイジェスト版 (5) 各種団体シート取りまとめ報告書</p>
---	--

(2) ヒアリング参加団体

① 第1回

開催日時：平成30年10月15日 10:00～12:00

団体名
鶴ヶ島市国際交流協会
鶴ヶ島第二小学校区地域支え合い協議会
鶴ヶ島の自然を守る会
つるがしま緑のカーテン市民実行委員会
鶴ヶ島市身体障害者福祉会

② 第2回

開催日時：平成30年10月15日 14:00～16:00

団体名
四季を味わう会
鶴ヶ島市民生委員・児童委員連合協議会
鶴ヶ島視覚障がい者の会アイネット
鶴ヶ島市聴力障害者会

③ 第3回

開催日時：平成30年10月16日 14:00～16:00

団体名
NPO 法人カローレ
鶴ヶ島市スポーツ少年団
鶴ヶ島市PTA連合会

④ 第4回

開催日時：平成30年10月16日 18:30～20:30

団体名
エコ鶴市民の会
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会
特定非営利活動法人こっこの会専門指導部
知的障がいを理解しよう Den&Den
鶴ヶ島市子ども会育成会連絡協議会

(3) ヒアリング参加団体意見（発言要旨）

① 第1回

団体名	発言要旨
鶴ヶ島市国際交流協会	<ul style="list-style-type: none"> ・最近では災害が多くなっているが、いつどんな災害が起こるか分からない。外国人は日本語が分からず、災害時対応説明用のやさしい日本語ではなく、今はイラストで対応するのが標準になり始めている。（文化庁もそう考えている。）そういうものを市民センター等に置いておいてもらいたい。 ・外国人児童の編入には話し合いが3回はかかるなど、複数課にまたがる事例があると行政の縦割りを強く感じる。 ・外国人は漢字が読めない。行政の文字（申請書類等も含め）にはルビを振っていただくと良いと思う。団体として支援できるので、声を掛けてもらいたい。 ・ボランティアは出入りがどうしてもあるので、その確保が必要である。今中心に活動している世代の、下の世代を確保しないと先細りになるので、行政もPRするなどの対応を行ってほしい。 ・市民団体の会員不足という点は、団体としても危機感を持ち、努力が必要である。継続した活動と、時代の変化に合わせた活動をしていくべきである。
鶴ヶ島第二小学校区 地域支え合い協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・我々が活動する中で、行政の縦割りの部分とぶつかることが多い。横串でうまく連携・対応できるようにしてほしい。 ・何かやろうとすると、予算がない、他に例がない、公平・平等ということばで終わることが多い。 ・地域コミュニティを進める上で、南市民センターと一緒に活動しようとしているが、一体となって活動できるようにしてほしい。教育委員会関係は多くの団体があるのにバラバラに活動してしまっている。 ・コミュニティについて、市民センターを中心に一緒に協議していく環境づくりを進めてほしい。 ・まちづくりの基本であるので、鶴ヶ島の道路をしっかりと整備してほしい。 ・市では、共鳴・共感してボランティアをする市民が少なくなっている。若い人が入ってきていない。行政だけでなく、地域を巻き込む「地域リーダー」のような人材育成が必要である。 ・イベントを実行するときに、お金の面も含め行政に頼りすぎている。市民の考え方を考える取り組みをしてほしい。地域と行政が一体となって実施できる雰囲気づくりが必要ではないか。 ・学校の教育の中で、ボランティアを言葉だけでなく理解させるようにすることが必要である。 ・人材発掘は難しいが、一人ひとりに声をかけていくのが近道である。また、小さくても構わないので、市民センター等の集える場所が欲しい。 ・今の計画の「鶴ヶ島は 元気にする」とはどういうことか良く分からない。サブスローガンで付带的に明確にすることが必要である。例えば「鶴ヶ島は世界一住み良いまちをつくるんだ」とか。 ・分析に基づき、人の多様化に対応し、施策を明確化していくべきである。

鶴ヶ島の自然を守る会	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地の保全については生活環境課、都市計画課、都市施設保全課と複数課にまたがっており、連携がとりにくい。 ・緑のまちづくり計画を作る予定になっていると思うが、緑の保全との整合性を取る上で、どちらが担当しているのかお聞きしたい。 ・緑地の保全にはお金がかかると思うが、今後どのように捻出するか気にかけてながら活動している。 ・鶴ヶ島は湧き水のまちであった。そのような原風景を残しながら、守るべき自然をしっかりと守ってほしい。川には水があまり流れてこない、また川岸は柵渠（さっきょ）の状態なので、昔の小川のゆるやかな護岸風にしてほしい。残せるところがほとんど無くなっている。 ・市街地が空洞化し、人が減る中で、市民も協力しながら農地の荒廃などへの対応を考えてほしい。
つるがしま緑のカーテン 市民実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい緑のカーテンを広めるため、学校に出向き出前授業をしたいので声を掛けてほしいと言っているが、なかなか実現できない。（学校のカリキュラムが固まっているので。） ・市と教育委員会で連携をとって、協力する機会をいただきたい。 ・活動は市民主体で進めるべきであるが、少しの助成で良いのでお願いしたい。まちづくりポイントなどのちょっとしたインセンティブでもあったら良い。 ・定年過ぎで家から出ない人が多くいると思う。外に出て活動に参加するよう促してほしい。 ・鶴ヶ島タウンチップという地域コミュニティツールがきっかけで地域コミュニティ活動に参加した。近年活用されていない現状を見直し、活用を図ってほしい。SNS を道具として使うための案内や勉強会をしてはどうか。 ・ごみの集積所は地主の好意であるが、使えなくなった時にどうするのか、方向性を示してほしい。花壇をつぶして集積所にしたケースもある。 ・地球温暖化等の環境問題が「他人ごと」になってしまっている。次世代にきれいな地球を残したい。
鶴ヶ島市身体障害者福祉会	<ul style="list-style-type: none"> ・私達の組織は高齢化が進んで、会員も半減している。定期的な会合を望んでいるが、集まるための足がないことが課題である。

② 第2回

団体名	発言要旨
四季を味わう会	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画を推進するという女性センターの設置目的を理解せず、利用している団体が多い。以前施設の統廃合の話があったが、女性センターを無くさないで欲しいというのがグループの1番の希望である。 ・鶴ヶ島市の男女共同参画推進条例がもっと市民に浸透したら良いと思う。 ・男性を含め、悩みがあっても相談できないという人が多い。困っている人や悩んだりしている人が相談できるような、外に出るきっかけがあると良い。 ・公民館から市民センターになったが、人が育つ場所としては、社会教育施設としての公民館は必要であったのではないかとと思う。今の市民センターは、職員も専門家（社会教育主事）でなく、正職員も減っているため、業務で手一杯で地域活動に力がまわらないのではないかと。結果として、お祭りを開い

	<p>て多くの人が集まれば良いのだという感じになってしまっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40代、50代の女性は働いており、地域とのつながりはない。市民センターを、人が育つ場にしてもらいたい。次世代の担い手がいなくなり、維持できなくなってしまうのではないかな。
<p>鶴ヶ島市民生委員・児童委員 連合協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の保健センター、こども支援課、障害者福祉課は良くやっ ていただいていると思う。民生委員は至るところで市に協力 していると思う。 ・現在民生委員は7人の欠員がある。民生委員のなり手が無い 上、少子高齢化のため、受け持つ件数が倍以上多くなってい る。高齢者で障害を抱えているといった複合的な支援が必要 な人も多く、一人ではとても抱えきれない状況で、様々な問 題が出てくる。 ・地域差はあるが、隣近所の付き合いがなく、むしろおせっか いは止めて欲しいという人も多くなっている。 ・地域で支え合うというのが地域とは何か、だれが何をどう支え るのか、紙の上では書いてあるが、実際にはやれない。行政 の仕事であって、民生委員の仕事ではないことはいくらでも でてくる。病気や経済的なことを助けるには、行政の力が必 要である。 ・民生委員が増えることを願っているが、このままで大丈夫な のかと危惧している。 ・民生委員の一人当たり委嘱戸数は280戸となっているが、600 戸以上を持っている民生委員もいる。 ・高齢者が亡くなると、戸建ての場合、相続を放棄することが 多く空家になる。市として何かできないかと思う。 ・鶴ヶ島市内には空家が240軒程度あり、そのうち空家バンク に登録しているのが2軒である。一度家を出た子どもは帰っ てこないし、家は古く、お金がないから建て直せない。 ・市内には親に依存して生きている40代から50代の男女が多 く、引きこもりが多い。親の年金で食べている。 ・今は学校に入学する子どもが少なく、空き教室が増えている ので、将来は閉校することもあるかと思うが、休校となった 学校を簡易的な老人ホームにしてはどうか。今、お金がなく て老人ホームに入れたい人が多い。 ・市の財政状況を鑑みると、行政に求めるだけでなく、一人 ひとりが協力し、努力することが必要である。
<p>鶴ヶ島視覚障がい者の会 アイネット</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者は自由に外出している人もいるが、外出できない人が 多く、活動も少ないと思う。 ・自分から外に出たり発言せずに引きこもっている人が、はっ きりと分からないが相当数いると思う。市内には100名弱の 視覚障害者がいると聞いているが、そのうち会員は20名程 度で、会員以外の方は把握できていない。会に入りたくない 人はしょうがないが、会を知らない人をなくしたい。 ・表に出てこない人が表に出て、生き生きと生活できるように したいと思うが、個人情報の保護等で、情報が取れないのが 実態である。 ・視覚障害者は、情報の障害と移動の障害が大きな課題である が、自分たちから発信しようとするものは、なかなか上手く いかないのが現状である。活動する場があっても移動手段が なく、なかなか集まれないので情報のやり取りができない。 ・手話言語条例に関して話しがあったが、手話に限らず、情報 の保障や障害者差別解消法の趣旨に沿ったものであれば良 いのではないかな。合理的配慮がうまく発揮できるようになれ

	ばいと思う。
鶴ヶ島市聴力障害者会	<ul style="list-style-type: none"> 音が聞こえないといっても色々な状況があると思うが、鶴ヶ島市内にいる人数は把握できない状況である。 情報を伝え合うために、タブレットの使い方等を教えてもらえる機会が欲しい。 タクシーやガソリン代など、市からの助成制度はあるが、移動の足はつるバス、つるワゴンである。しかし、夜走っていないことから、走らせてもらえると助かる。特に、市民センターが22時まで開館していても、帰りの移動手段がない。 鶴ヶ島市報があっても、文字は見えるが内容が理解できない。文字が小さくて見落とすとか、情報不足になりやすい。高齢者にも読めるよう文字を大きくしてもらいたい。 災害時、学校が避難所になると思うが、生徒の数が減って、被災者受入れの場となる学校がなくなったら、どうしたら良いのかという意見がある。 手話言語条例の他に、情報アクセス等に配慮した条例なども幅広く制定して欲しい。

③ 第3回

団体名	発言要旨
NPO 法人カローレ	<ul style="list-style-type: none"> 学童保育の数は、平成12年頃までは1小学校区に1つであったが、共働きの増加に伴い、児童数は減少したが、学童保育の利用者は増えている。児童の管理、保護の観点から7～8年前から分化した。地域によってその傾向は大きく変わらない。 学童の現場では、イベント実施等の保護者会活動があるが、共働き家庭が増えていることや、生活が苦しい家庭が増えていることから、その負担を減らしながら運営をする必要が求められている。 中学校の生徒減少により、部活動も減少しており、小学校5・6年生になると「〇〇中学校には××部がない」と言っているのをよく聞く。 鶴ヶ島の学童は20:00までやっているのだから、鶴ヶ島に越してきたという話もある。(※川越は18:00まで) 民間の強みを活かし、ネットワークづくりやサービスの面から積極的な対応をとっても良いのではないかと感じる。鶴ヶ島市は色々な活動をしている市民団体が多いが、バラバラでもったいないと感じる。 小学校を卒業し、中学生になった子どもが学習支援に参加したり子ども食堂を利用しているという現状はリアルにある。 貧困のラインは年収300万円程度と考えられるが、子どもが50人いたら、1～2割が貧困と思われ、負担を掛けない工夫や仕組みが必要である。 学力も大切だが、子どもの時に楽しい思い出や嬉しい経験があると、将来また鶴ヶ島に戻ってくるきっかけになると思う。 鶴ヶ島は宿題が多いと感じる。宿題が多いからといってその国の子どもの学力向上には関係していない。遊びや情操教育とのバランスが大切である。
鶴ヶ島市スポーツ少年団	<ul style="list-style-type: none"> 少年団の加入者は、県内では減少しているが鶴ヶ島市は横ばいである。サッカーをする子はクラブチームに流れてしまう。 チーム存続のために、学区ごとで人数が少なくなってきたら複数のチームを合体させたり、子ども自身が友達に声かけを

	<p>したりと、自ら頑張っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の部活動が、スポーツだけでなく文化部まで今後平日が2時間、土日がどちらか3時間までになると聞いたが、子どもは満足できるか疑問である。 ・現状として、進学先の中学校に部活動がなくて、中学校で好きなスポーツが続けられないというのがある。志木市では部活動のため、学区を越えた選択制となっている。 ・団体の維持のためには、規模に合わせて活動や行事を減らすなど、変化に対応することも必要ではないか。 ・ゲームで遊んでいる子どもは猫背になってしまう。運動するには一番いけない姿勢である。
鶴ヶ島市PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少により子どもが減るとともに、保護者の数も減っている。多くの家庭が共働きやひとり親であったりするので、今の事業を維持するのは難しい（保護者の負担が増える）ことからバザー、資源回収、除草作業、広報の発行等色々あるPTA活動を縮小している。 ・学校の先生は、授業だけに専念できる現状ではなく、事務負担が大きくなってしまっていると感じるが、できれば夜の見回りとか、PTAの活動に参加してもらいたい。 ・中学校でやりたい部活動がなく、他市の中学校に行ってしまうケースが発生し始めている。学校再編を待たずとも、部活動の合同実施などできることではないか。その際に、つるワゴンが活用できるといいのでは。 ・人生100年時代の今の子どもが、一度は鶴ヶ島から出て行くにしても、30代、40代の時に戻ってくるような環境づくりが必要である。 ・地域活動として残しておきたいものもあるので、やせ我慢してもやっていることはある。夏祭りなどは続けて行きたいと思う。色々な活動をしている地域は活気があり、防犯にもつながっているのではないかと思う。 ・今の子どもは遊びの部分がゲームにいつてしまう。ネットゲームを減らしていく必要があると思う。特にスマホゲーム依存への対策は、社会全体で考えないといけない。

④ 第4回

団体名	発言要旨
エコ鶴市民の会	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には学童指導員をやっているが、問題を抱えた子どもが相当数いる。そういうことを含め、まちづくりということばをよく使うが、充実感や楽しかった思い出を経験するとそのまちが好きになると思う。 ・国連が掲げるSDGsには17の目標があるが、その中に持続可能なまちづくりというのがある。その地域で楽しみがあることが必要だが、今は楽しみがなくなりつつあると思う。 ・子ども食堂が必要となる状況となっている。総合的にこのようになれば、このまちは素晴らしいまちになれるという、大きな見地からの目標があまり見えない状況ではないか。個々の団体は一生懸命活動しているので、明確なビジョンが欲しい。 ・計画を作るのであれば、盛り上げるようにしてもらいたい。
鶴ヶ島市障害者支援ネットワーク協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・Sネットは6年前にでき、市役所内には知られるようになってきたが、市民へは普及しておらず、イベントをしても当事者と関係者のみで、一般市民が来てくれない状況である。 ・以前実施していた福祉まつりのような場が欲しい。 ・Sネットが発足したことで、他の障害団体とのつながりが

	<p>きた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい会員が見つからないことが課題である。私たちの悩みは、当事者やその家族が一番分かっている。個人情報の問題があるのは分かるが、団体等の紹介をしてもらえると助かる。
<p>特定非営利活動法人 こっこの会専門指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの当事者や保護者は発達障害の診断を受けていない。グレーゾーンの場合はスタッフも慎重に対応するがもどかしい状況である。毎年この時期就学前検診があるが、支援級か通常級かの、より良い進路選択が必要である。 会員は成人してもなかなか止めないが、相談窓口としてあってもらいたいためである。大学にいても仲間ができないが、ここにすれば仲間がいるから。 本会は障害者福祉課の管轄となっているが、乳幼児期から早期発見が必要なことからこども支援課との連携や、成人して就職に失敗して引きこもると福祉政策課になり、就労となると生活サポートセンターになり、多岐にわたって庁内各部署とのコンタクトが必要になる。何かに対応しようとしても各部署ばらばらで反応が鈍いと思う。情報発信をまとめて実施してくれる部署が欲しい。 障害のあるなしにかかわらず子育てを支援する団体なので、紹介されることは問題ない。市は多くの情報を持っているので、共有して欲しい。 当会は0歳児から診断できる対応をしている。育児ノイローゼも緩和する支援が可能である。99歳まで対応可能なので、認知症も発見できる。 ダブルケアの問題を考える必要がある。子育ての相談を受けながら介護の相談を受けるケースが最近多くなっている。老健と特養の違いが分からない、デイサービスと入所が分からない、地域包括支援センターが全然分からない、そういった人が多い。 外国人の問題もある。読み書きができず、会に丸投げである。学校の先生は翻訳機を手にしながらかつて授業をしていると聞いた。(市外であるが。)子どもにはスマホを持ち込ませない指導をしているので、翻訳機になってしまう。 来年度から外国人労働者が増えることが予想され、外国人の子ども健康や親のストレス等、どうなるかと心配している。
<p>知的障がい理解しよう Den&Den</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市内支援学校ができたことから、知的障害児は増えていると思うが、会員は増加しておらず、来やすいようにしたいと考えている。 障害者は軽度から重度までいるので、市内のイベントでは親子一緒でないと参加は難しい。会場でサポートしてくれる誰かがいれば参加しやすいと話している。 障害のある子どもが産まれたときに、親の会を紹介してもらいたかったが、児童相談所に行くように言われた。今は年何回か教育センターで情報交換会が行われているが、子どもが小さい時に引かかっていることはこども支援課でわかっているはずなのに、もっと早く紹介してあげていたらと思う。母親は情報をもっと早く知りたいと思っているはずで、支援団体につながらないのは問題であると思う。市が支援団体とつながっていることは、市民にとってもメリットではないか。 市内の作業所は現在8事業所に増えているが、一般市民も、障害を持つ子どもの親も知らないと感じる。販売する場所や時間が限られており、常設であるより知られることになる

	<p>し、モノが売れないと工賃に反映されない。作業所の人達はそれを考え、遠くまで販売に出掛けている作業所もある。そういうことも少し考えてもらいたい。</p>
<p>鶴ヶ島市子ども会育成会 連絡協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ジュニアリーダーの育成について、健常者の子どもに向けての発信がメインであったが障害者保護者から参加できないかという問合せが来る。Sネットとのつながりで、支援員がいるので対応可能であるが、視覚障害や聴覚障害への対応が必要になったときどうするかと思う。 • 会員が少なくなっているため、連携が必要である。 • 放課後子ども教室は教育委員会の担当で、子どもサロンは地域活動推進課でやっているが、教育委員会は時々算数教室をやり、子どもサロンでは宿題サロンみたいなことをやっており、そのあたりの情報が市役所内でも共有されていないのではないか。 • 情報発信がばらばらで、同じ日に行事が重なり子どもの取り合いになっているので、分けるような仕組みが必要ではないか。庁内でしっかりと情報共有と連携をして欲しい。 • 市は、予算の切れ目が縁の切れ目と思っているのではないか。事務局活動を市が手放すと、実際団体の運営は厳しい。人数が少なくても、良い活動をしている団体を認めて欲しい。 • 今、新入生の4割近くの親が学童保育を希望している。年々増えている。現在の学童保育は子ども達がひしめき合っている感じで、指導員は大変だろうと思う。また、学童が学校から遠いと危ないと感じる。